

メッセージアウトライン

ヨハネ14：25~31「キリストの与える平安」

「このこと」(25)とは13,14章で今までイエスが弟子たちに話されたこと。これらのことは弟子たちにとっては聞くことは聞いても、単なる知識としてしか頭にとどまらなかったかもしれない。しかしイエスは続いて、父なる神がイエスの名によって遣わされる聖霊がすべてのことを弟子たちに教え、また思い起こさせて下さると約束された。(26) すなわち聖霊が今までイエスが語られたすべてのことの意義を明らかにし、実際の信仰生活に適用させ、その結果として私たちが正しい信仰の歩みができるようにして下さるのである。それゆえ信仰者はこの聖霊の導きを願い、聖霊により頼んで歩いていくことが大切。

「わたしは、あなたがたに平安を残します。……あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません」(27)。それはこの世が与えるような平安ではなくイエスが持つておられる平安。神にある平安、良心の平安、父との交わりから来る平安、父のみこころを行うことのゆえの平安である。私たちもこのみことばの約束をしっかりとおぼえる時、恐れたり心を騒がしたりするような出来事や、またどんな時でもこのイエスの与えて下さる平安をいただいて生きることができる。「あなたがたは、もしわたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くことを喜ぶはずです」(28) イエスは父のもとに行き、その右の座に着かれることによって、地上におられた時の状態ではなく、もともと持つておられた神としての本質において交わりを持たれる。これはイエスにとって大きな喜びであるだろう。またイエスが父のもとに行かれることによってイエスが地上におられた時になしたわざよりも大きなわざを弟子たちができるようになる。→ヨハネ14:12,13 これがイエスが天に行かれても弟子たちが喜ぶことのできる理由なのである。

「父はわたしよりも偉大な方だからです」(28)これはイエスが地上において人間としての仕える者の姿をとって父なる神に従っておられるゆえの謙遜、へりくだりの表現であり、決してイエスが本質的に劣っており、それゆえ神ではないということの証拠ではない。「そして今わたしは、そのことの起こる前にあなたがたに話しました。それが起こったときに、あなたがたが信じるためです」(29)弟子たちはイエスが前もってこれらのことを教えられていたがゆえに、それらが起こった時に信じることができ、信仰の確信を持つ者となったのである。

「わたしは、もうあなたがたに多くは話すまい。この世を支配する者が来るからです。彼はわたしに対して何もすることができません」(30)「この世を支配する者」とは悪魔のことである。しかし悪魔はあらかじめ神によって定められていることを行うのみであって、それ以上のことは何一つすることができない。神は悪魔の働きをも用いてご自分の計画を達成させられるのである。「しかしそのことは、わたしが父を愛しており、父の命じられたとおりに行なっていることを世が知るためです」(31) イエスが捕らえられ十字架に至るといふその歩みはイエスが父なる神のみこころの成るためにその命じられたとおりに行なっていることを世の人々が知るためであった。決してその出来事は偶然に起こったことではなく、旧約時代から預言(イザヤ53章等)されていたことの成就であることを世の人々は後になって知るようになるのである。そしてイエスは弟子たちに「立ちなさい。さあ、ここから行くのです」と言われ、ゲッセマネへと進まれる。